

青い地球に

高森
保

ごみ入れ袋と四〇センチ程の火バサミ持って
家から駅前まで毎朝ごみ拾い

家の女房殿おかんむり

「人様の物を家に持ち込むな コロナウイルスも持ち込み迷惑」

「人に格好つけて見せ わが部屋も片付けん

掃除もせんぐうたら 怠け者^{もん}」

家でもごみの減量に気を使う

食ベ残し しない

鯛は頭から尻っぽも食う

汁物の汁も残さない 食器の油気があると

白湯を注ぎ箸でかき混ぜて飲んでしまう

女房殿はおかんむり

「作法知らんガツガツ食う犬猫 浮浪者認知症」

鯛の頭からの食べ方は幕末の志士の生き方

おいしい物をおいしく食べるのが生き甲斐

今の世相作法が本当の人間らしいのか

曹洞宗禅の永平寺を開いた道元の作法に学んだ

食器を汚さない習慣化は時代の逆行

退行人間か

県がくれた「ふるさと美化活動 ごみゼロちゃん」と

「見たいよ一〇〇年未来の青い地球」

僕はあと一〇年生きられるかわからない

体が動けるごみ拾いもこの数年だろう

青い地球の海がプラスチックごみの微小化で

汚染され 小魚たちが食べるが消化できない

食物連鎖で豊かな海が死の海に変貌して行く

車からポイ捨ての吸殻も

道路横断の安全守る横断旗が風で飛ばされ

車道に落ちていると プラスチックの柄ごと

車が轢いて行く

その小さなゴミも丹念に拾いつつ思うのは

青い地球に豊かな海